

## 財政収支(2018年1-6月)

(1) 2018年1-6月における歳入は前年同期比18.2%増。所得税及び法人税が大きく伸び、税収は同19.8%増。

(2) 歳出面では、資本的支出や利払費が大きく伸び、歳出全体では同23.2%増。

(3) 財政収支は461億リラの赤字(前年同期比82.6%増)。プライマリーバランスは123億リラの赤字(前年同期は18億リラの黒字)。

データ:財務省 単位:百万リラ

歳入・歳出内訳	2017年(A)	2018年(B)	増加率 ((B-A)/A)
歳入(a)	299,200	353,601	18.2%
税収	246,071	294,820	19.8%
所得税	50,318	63,436	26.1%
法人税	27,043	34,730	28.4%
付加価値税(国内及び輸入)	70,276	84,857	20.7%
特別消費税	60,954	67,678	11.0%
その他税収	37,480	44,119	17.7%
税外収入等	53,129	58,781	10.6%
歳出(b)	324,435	399,691	23.2%
人件費	81,824	98,569	20.5%
物品及びサービスの購入	26,411	30,713	16.3%
経常移転	143,775	164,689	14.5%
資本支出	20,996	35,599	69.6%
支払利子(c)	26,990	33,807	25.3%
その他歳出	24,439	36,314	48.6%
財政収支(a-b)	▲ 25,235	▲ 46,091	▲ 82.6%
基礎的財政収支(a-(b-c))	1,755	▲ 12,283	▲ 799.9%

## 経常収支(2018年1-5月)

(1) 2018年1-5月の経常収支は、前年同期比58.6%減少し、277億ドルの赤字。

(2) 貿易収支は前年同期比62.3%減少、旅行収支は同39.6%の増加。

データ:中央銀行 単位:百万ドル

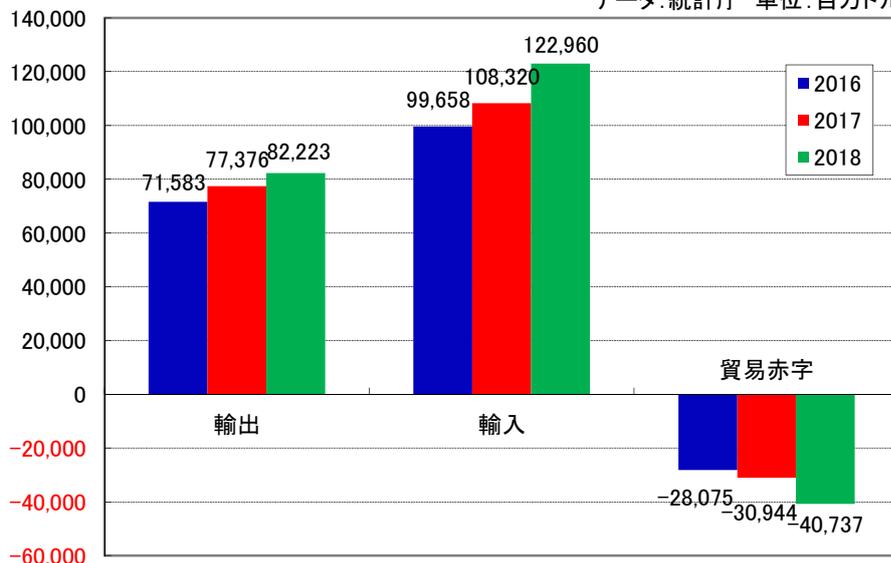
内訳	2017年(A)	2018年(B)	増加率 ((B-A)/A)
経常収支	▲ 17,476	▲ 27,724	▲ 58.6%
貿易収支(物品)	▲ 17,966	▲ 29,163	▲ 62.3%
サービス収支	3,979	6,342	59.4%
旅行収支	3,917	5,470	39.6%
その他サービス収支	62	872	1306.5%
第1次所得収支	▲ 4,336	▲ 5,015	▲ 15.7%
第2次所得収支	847	112	▲ 86.8%
労働者送金	191	119	▲ 37.7%
その他第2次所得収支	656	▲ 7	▲ 101.1%
資本移転等収支	▲ 1	35	3600.0%
金融収支	▲ 24,264	▲ 20,579	15.2%
直接投資	▲ 3,857	▲ 2,181	43.5%
証券投資	▲ 13,209	▲ 1,022	92.3%
その他投資	▲ 1,830	▲ 16,605	▲ 807.4%
外貨準備	▲ 5,368	▲ 771	85.6%
誤差脱漏	▲ 6,787	7,110	204.8%

## 貿易収支(2018年1-6月)

(1) 2018年1-6月の輸出額は822億ドル(前年同期比6.3%増)、輸入額は1230億ドル(同13.5%増)となり、この結果、貿易収支は407億ドルの赤字(同31.6%赤字拡大)となった。

(2) 2018年1-6月の輸出額におけるEU向け輸出の占める割合は51.4%(前年46.1%)、輸入額におけるEUからの輸入の占める割合は37.4%(同35.8%)となっている。

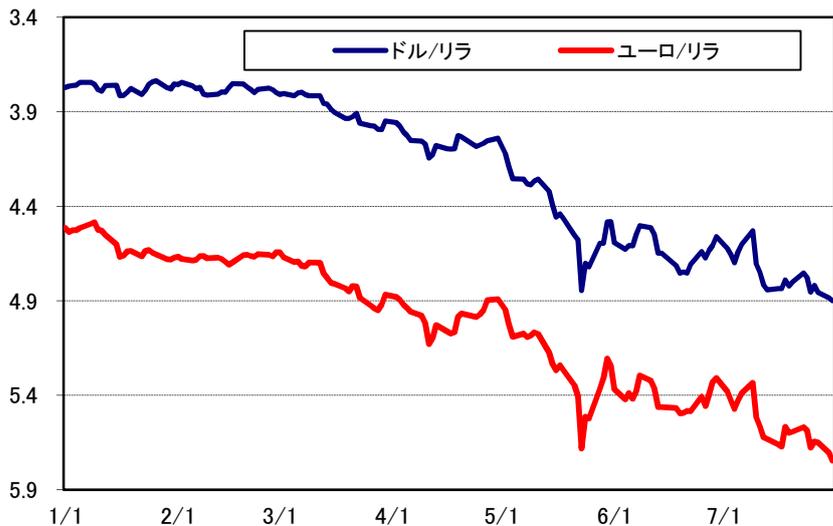
データ:統計庁 単位:百万ドル



## 為替(7月)

7月のドル・リラ及びユーロ・リラ相場は、9日にスタートした実権型大統領制での閣僚人事への失望、24日の金融政策委員会で1%超の利上げを見込んでいた市場の期待に反し、政策金利を据え置いたことによる中銀の独立性への懸念、ブランソン牧師釈放を巡る米国との関係緊張化などからリラ安が進行。最終的に1ドル=4.90リラ、1ユーロ=5.75リラ(ともに最安値)で越月。

データ: 中央銀行 単位: 1ドル=リラ、1ユーロ=リラ



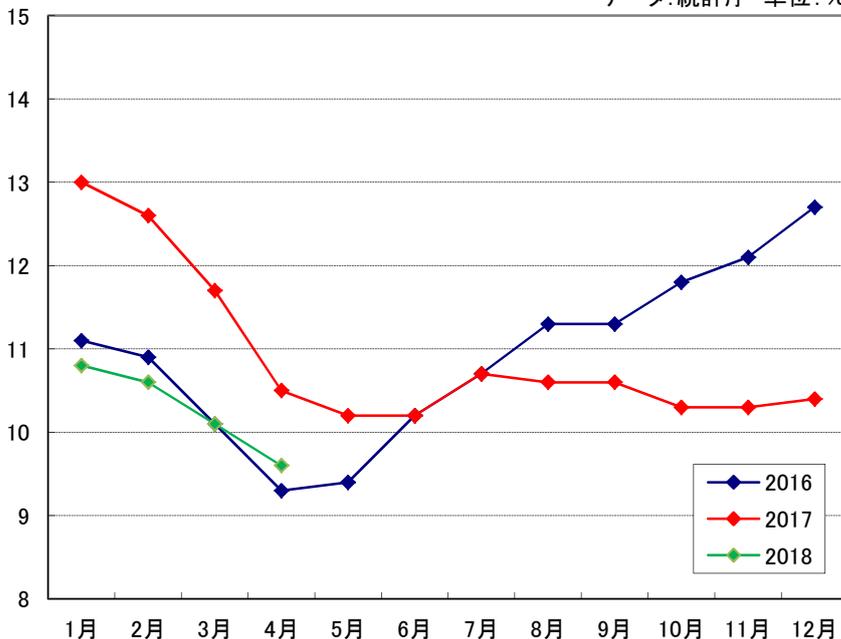
## 失業率(4月)

(1) 2018年4月期の失業率は、9.6%。前年同期から1.1ポイントの下落、前月から0.5ポイントの下落。

(2) 労働力人口は3,210万人、就労者数は2,901万人、失業者数は309万人。

(3) 男性の失業率は8.3%、女性は12.3%。若年層(15-24歳)の失業率は16.9%となっている。

データ: 統計庁 単位: %



## 物価上昇率(6月)

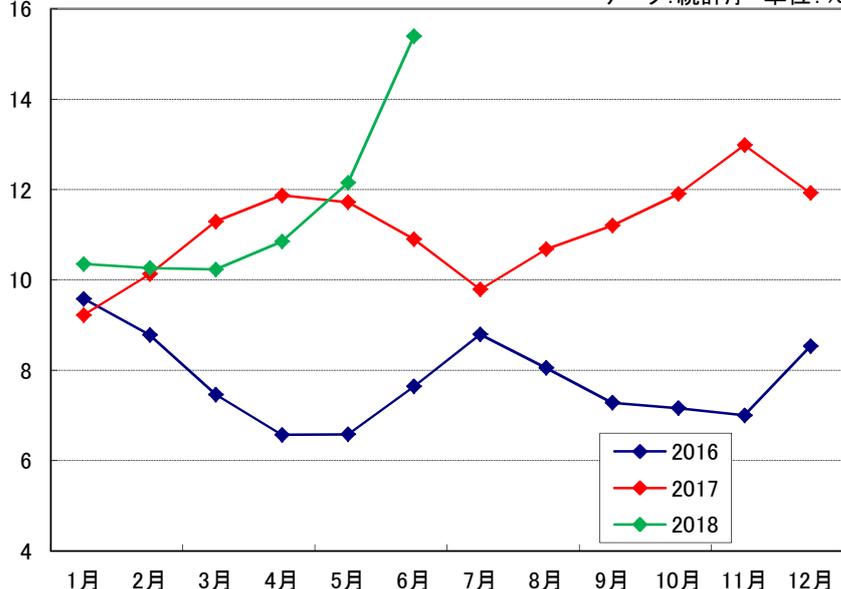
(1) 2018年6月の消費者物価は前月比2.61%増、前年比15.39%の上昇。

(2) 分野別に見ると、前月比で最も上昇したのは食料品で5.98%。前年比で最も上昇したのは運輸で24.26%。

(3) 本年末の中銀見通しは13.4%。

(4) 国内生産者物価指数は前月比3.03%増、前年比23.71%増となった。

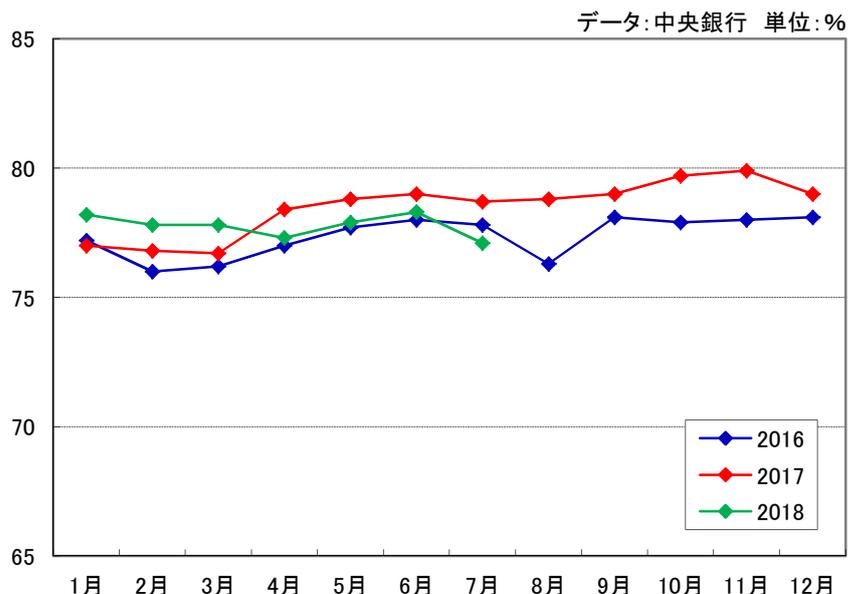
データ: 統計庁 単位: %



## 設備稼働率(7月)

(1)2018年7月の設備稼働率は77.1%となり、前月から1.2ポイント低下。前年同月からは1.6ポイントの下落となった。

(2)製造業の分野別では、紙及び紙製品(87.5%)が最も稼働率が高く、革及び革関連製品(59.1%)が最も低い稼働率であった。

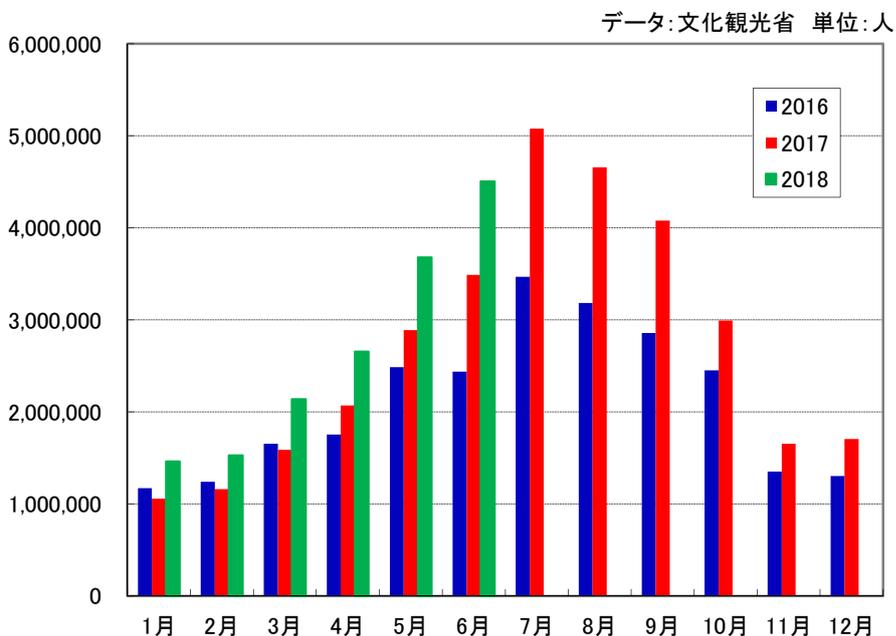


## 外国人訪問者数(6月)

(1)2018年6月にトルコを訪れた外国人訪問者は451万人で、前年同月比29.2%増。

(2)訪問者数を国別に見るとロシアからが最も多く99万人で全体の22.0%を占める。以下、ドイツ(45.2万人)、英国(30.7万人)となっている。

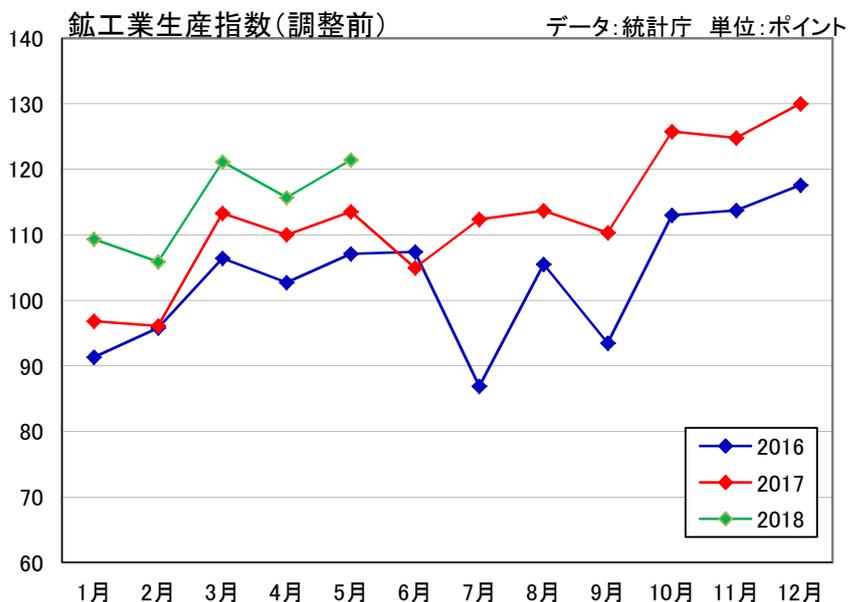
(3)なお、日本からの訪問者は7,030人(前年同月比71.9%増)となった。



## 鉱工業生産指数(5月)

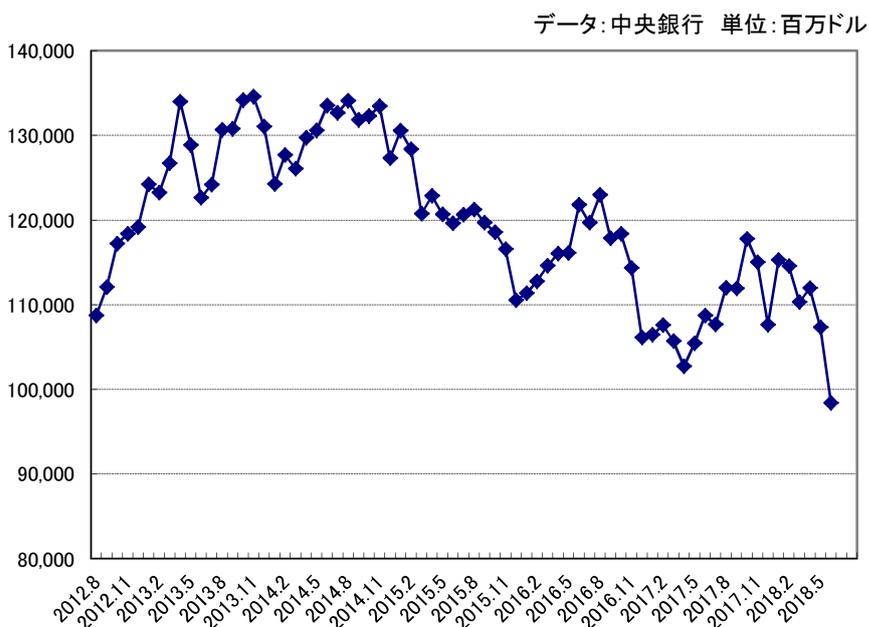
(1)2018年5月期の鉱工業生産指数(調整前)は121.4ポイント(2015年=100)となり、前年同月比(日数調整後)は6.4%増、前月比(季節及び日数調整後)は1.6%減。

(2)分野別では、耐久消費財が、前月比1.8%増。



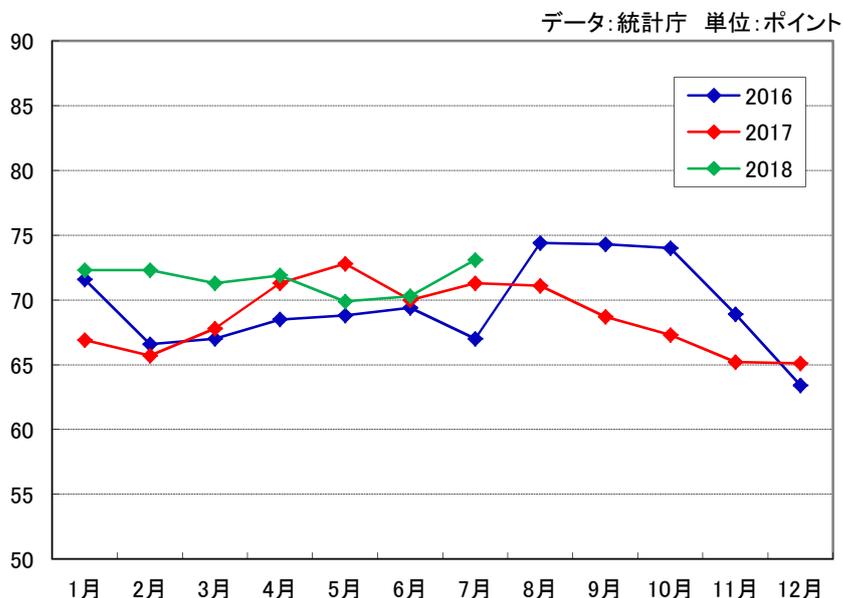
## 外貨準備高(6月)

(1)2018年6月時点での中央銀行の外貨準備高(金を含む)は984億ドルとなった。  
 (2)2012年6月(955億ドル)以降、6年ぶりに1,000億ドルを下回った。



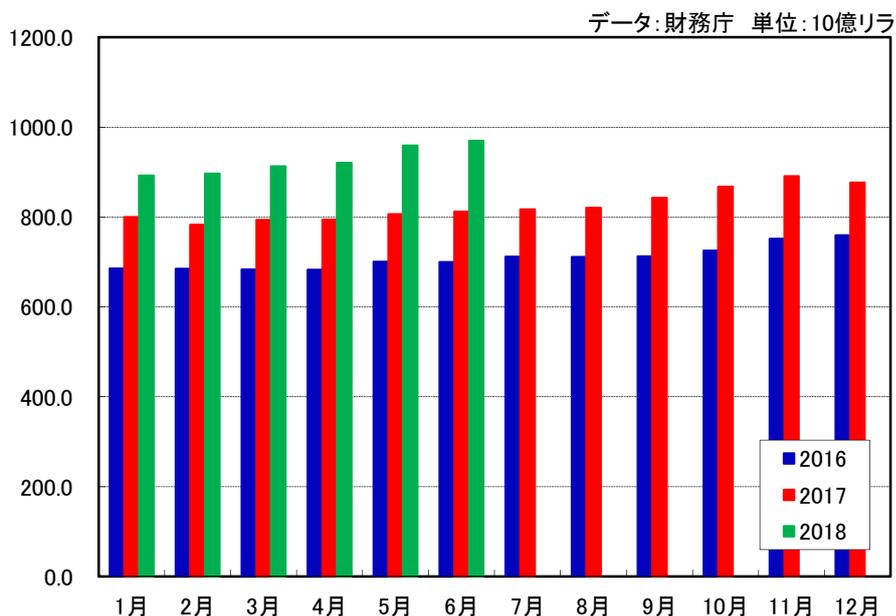
## 消費者信頼感指数(7月)

(1)2018年7月期の消費者信頼感指数は前月から2.8%増加し73.1ポイントとなった。  
 (2)内訳では、家計における財政状況見通しが2.9%増加し92.0ポイント、一般経済見通しが4.2%改善し、96.3ポイントとなった。



## 中央政府債務残高(6月)

(1)2018年5月時点での中央政府債務残高は9,698億リラとなり、前年同期比19.5%増加した。なお、前月比では1.1%の増加となった。  
 (2)また、国内債務比率と自国通貨債務比率は共に57.9%となっている(2017年末61.1%)。  
 (3)なお、円建て外債(サムライ債)の発行により、債務残高のうち円は2.9%で、外貨ではドル、ユーロに次ぐ地位を占めている。



※本資料は、当館がトルコ政府発表資料を取り纏めた参考資料であり、当館がその正確性等を保証するものではありません。

